令和７年度　自己評価・施設関係者評価結果について

認定こども園青森ひかり

１．園の教育・保育目標

当園の「子ども像」として、以下の３項目を目標に挙げている。
1.なかよく…集団生活の中で子ども自身が友達と認め合い助け合う『思いやり』の心を持つ子
2.たのしむ…活動や遊びの中で育む『意欲を持つ』子
3.げんきな子ども…健やかで丈夫な体作りにつながる『生きる力』を持つ子

認定こども園移行 10 年目。園の理念「子ども一人一人が輝く理想の場所であるために、地域及び保護者の子育てを支援し、子どもの生きる力の基礎を育むこと」を掲げている。

■遊びこめる保育環境作り・子ども主体の保育と行事の再構築

3-5 歳児クラスでは、子どもの興味・関心を起点に「主体的な学び」を保育の核に、従来の「教え込み型の行事」から脱却するため、大幅な行事の見直しを行った。発表会では、 単なる発表の場ではなく、日常の遊びが地続きで行事へと発展するプロセスを重視し、「やらされる行事」でなく「自分たちのプロジェクト」として没頭し、創造性を発揮する姿が見られた。新しい試みの試行錯誤は大変ではあったが、次年度はさらに質の向上や深化を図りたい。

■ 子どもたちの劇的な変化と成長

日々のサークルタイムやポジティブな行動支援（PBS）の継続で、子どもたちの内面に以下の変化が見られた。

① **「対話」の質向上：**以前は保育者の指示待ちが目立ったが、自分の考えを言葉にし、同時に「友達の意見には自分と違う良さがある」ことを理解し始めている。

② **主体的な問題解決：**困難・トラブルに直面すると、すぐに大人に頼るのではなく、子ども同士で「どうすればいいかな？」と輪になって相談し、納得できる解決策を見つけ出そうとする頼もしい姿が増えた。

③ **思考の深まり：** 遊びの中で「もっとこうしたい」という探究心が育ち、聞く・話す・考えるといった非認知能力が、生活場面で発揮されている。

■障害児保育の知識と対応を学ぶ

１）発達支援専門員の外部講師の PBS 支援法（ポジティブな行動支援法）を軸に、園内研修を行い気になる子への対応と職員共有の機会を多く持つことができた。様々なケース・クラス毎に、職員が悩みながら対応しているため、職員同士でも悩みを共有し、一緒に考え、人的環境を含め、よりよい環境作りにつなげられるよう、今後も努めたい。

２）様々な療育先との連携も行われ、支援児に対する対応についても相談することができた。

2．重点的に取り組むことが必要な目標や計画をもとに設定した施設評価の具体的な目標や計画

評価項目に沿って自己点検、自己評価を実施することで、保育者自らが客観的に自園を見る目を養い、環境全般の改善、保育内容や保育方法の改善に主体的にとりくんでいくことを目標とする。また、施設関係者評価を受けて、課題を確認し、その改善に取り組む。

＜評価＞
5…十分達成されている　4…達成されている
3…どちらでもない
2…取り組まれているが、成果が十分ではない
1…取組が不十分　コメントなども可

3．評価項目の達成及び取り組み状況と評価

評価項目	取組内容	取組状況	評価
教育課程・指導	遊びこめる環境作り・子ども主体の保育と行事見直しと再構築に取り組む。	異年齢保育の課題を踏まえてクラス主体の環境づくりへと移行し、子どもの主体性を重視した行事へと見直した。「教え込み型の行事」から子どもの興味を起点とした「主体的な学び」へ見直しにより、子ども達が主体的に没頭し、園児同士の対話による課題解決や探求心の芽生えなど、大きな成長と学びの深まりが見られている。	4
保健管理	学校保健計画をもとに感染症発生予防や対応を含め、保護者との連携や園児の健康保持や増進に努める。	各感染症が少数だったが、0・1歳クラスのインフルエンザA罹患者が多く10名となった。また、年度末にインフルエンザBに感染するこどももいた。 引き続き、熱性けいれんに関する訓練や対応整備（緊急時の対応・保護者との確認）を行った。	4
安全管理	学校安全計画をもとに、各活動の安全確保の取組を行い、職員の安全管理の意識を強化。 ヒヤリハットの事例を把握し職員共有の上、発生防止・予防につなげる。	ICTアプリ等を用いたヒヤリハットの分析・起きやす曜日・時間・場所・園児の割出し、マップ可視化や危険箇所の迅速な改善を図っている。 「職員対象安全ツアー」や「不審者訓練」で、全職員が即座に行動できる安全管理体制を構築している。 毎月の延長時間帯訓練などを通じて、保育職全員がいざという時の確認やICT配信等の行動がスムーズになった。	4
災害対策	災害発生時の安全確保や通報訓練･避難･引き渡しまでの方法や手段を共有し、訓練を行う。 防災マニュアルや危機管理マニュアルの修正をする。	保護者の引き渡し訓練では、保護者との連携体制や引き渡し方法を確認することができた。 BCPの職員の内部研修を行ったが、防災マニュアルとの整合性を図ったり、細部の調整や現実的な視点での修正もあり、再度、職員周知機会を重ねて実施していきたい。	4
特別支援教育	障害児保育の専門的知識・対応を学び、家庭・関係機関との連携を図る。 集団の中での個別対応の方法や環境整備を進める。	外部講師によるPBS（ポジティブな行動支援法）研修を軸に、気になる子への対応策や療育先との連携体制を共有した。今後も職員同士で悩みや支援方法を共有・協働し、人的環境を含めたよりよい保育環境づくりに努めたい。	4
組織運営	労働環境の改善と働き方改革の継続実施 職員の定着ケアの模索	各種休暇や勤務時間短縮などの労働環境改善を推進してきた成果を踏まえ、今後は職員間のつながり強化やメンタルケアを通じた定着支援の取り組みを進めていく。	4
研修（資質向上の取り組み）	教育・保育の質向上のために、園内研修の実施や園外研修にも積極的に参加する。	「はなれ」建設により、職員の研修環境が整い、安全・発達・保健・人権・保育など、多岐にわたる内部研修を実施できた。今後は、勤務体制を見直し、ノンコンタクトタイムのさらなる促進と確保を図りつつ、保育の質向上と改善を継続していく。	4
小学校接続	小学校へのスムーズな接続が図れるような工夫や取り組みを積極的に行う。 幼保小連携研修に参加する。	「架け橋プログラム」実施で、筒井小学校と近隣園との話合いや複数回の交流を図ることができた。幼保こ小接続を見据えた5歳児のｱﾌﾟﾛｰﾁｶﾘｷｭﾗﾑを策定し、秋から半年をかけて、無理なく小学校での生活につなげられるよう日々活動を実践している。	5
教育・保育目標施設評価	教育・保育目標の設定と自己評価の実施状況、施設関係者評価の実施状況、施設に対する保護者の意見・要望等の状況	自己評価アプリの活用や計画的な園長面談により、職員が目標を意識して業務に取り組む体制を整えた。 また、行事ごとや保護者・卒園生向けのアンケートを通じて多様な意見を収集し、質の向上や振り返りに活かしています。今後はより細やかな面談の機会拡充を目指す。	3
情報提供	アプリを利用したドキュメンテーション等で保護者に保育活動の状況を伝える。 ＨＰ活用等周知する工夫	保護者へはICTを活用した「保育ドキュメンテーション」で日々の活動を可視化している。 今年はHPでのブログ機能を活かせなかったため、次年度は、行事・活動内容等の公開につとめたい。	3
保護者・地域住民との連携	施設運営への保護者、地域住民の参画及び協力の状況。地域住民から寄せられた具体的な意見や要望の把握	園内行事は「ふれあい」を重視した活動を心掛け、クラス懇談試食会では、保護者同士の交流を含め、好評を得た。 地区で行われる地域高齢者の会での交流は、地域老人会交流（筒井・奥野）に参加し、ふれあい遊びや遊戯披露などで交流を深め喜ばれた。 養成校の実習生や高校生インターンシップ・市外中学生の職場体験受入れを行った。	4
子育て支援	園庭開放を行い、0～2歳児クラスで一緒に保育体験・行事交流をおこなう。 青森市の地区別子育て広場の職員派遣の実施	今年度は5～1月（全21回）に期間を延長して子育て支援プログラムを実施し、延べ33組が参加した。季節に応じた遊びや菜園体験、離乳食講話、保護者同士の談話タイムなどが好評を得たほか、運動会での未就園児交流や外部ひろばへの職員派遣を通じ、地域への子育て支援を推進した。	4
預かり保育	１号認定児の預かり保育時間・料金など充実を図る。認定変更の相談に乗り、子育て支援に努める。	１号認定児の預かり保育時間・料金など充実を図っている。２歳児クラスの満３歳児１号認定への移行の希望者が多く、夏以降、１号認定希望の相談に乗ったり、移行の対応を行い、支援につなげている。	5
教育・保育環境整備	環境整備	主体的保育実施のため、保育環境に棚を設置したり子どもの導線を考え、おもちゃの配置を変えるなど、発達に合わせた環境設定を模索している。	4
食育	菜園活動・調理体験・栄養士による食育指導を通じ、食への関心を深める。 保護者が給食を試食する機会を持ち、子育ての支援につなげる。	菜園活動（苗植え・水やり・収穫）から調理体験につなげていることで、野菜や食材への興味関心が広がり、子ども達の好き嫌いが減り、野菜を積極的に摂る姿が見られている。 年3回、栄養士による食育指導を行い、食事のマナーや基本的な習慣、自然への知識も身につくようになった。	4

4．施設関係者評価の具体的な目標や計画の総合的な評価結果

結果	理　　由
4.0	保育活動での「遊びこめる保育環境作り・子ども主体の保育」と抜本的な行事見直しをおこなった。日々のサークルタイムやポジティブな行動支援（PBS）の継続により、園児の主体的な対話や課題解決、探究心の深化といった大きな成長が見らた。今後も、試行錯誤しながら、よりよい保育の実現に向けて保育者･職員が施設関係者評価の趣旨を理解し、振り返りと改善努力に繋げることができるよう今後も自己点検･自己評価に取り組んでいきたい。

5.今後、取り組むべき課題

課　　題	具体的な取り組み方法
・子ども主体の保育実施 ・障害児保育の知識対応を学ぶ	【1】「子ども主体の保育」実施継続。 【2】障害児保育の専門的知識・対応を学ぶ。

認定こども園青森ひかり　令和７年度　施設関係者評価　結果

《施設関係者評価項目》　5：とてもよい　4：よい　3：ふつう　2：あまりよくない　1：改善が必要

評価期間　　令和８年３月17日～3月27日
評 価 者　　５歳児保護者15名
評価方法　　アンケート用紙記入、対面で協議　評価は平均点とした

		評　価　項　目	評　価
1	概要	園の理念、教育保育目標の周知	4.7
2		入園説明会や入園の際の説明や手続きについての対応	4.8
3	環境整備	園舎や施設設備（保育室内・手洗い場・トイレ等）	4.5
4		園庭・菜園について	4.7
6		遊具・おもちゃ・絵本の整備について	4.7
7	保健安全管理	園舎や施設設備の安全管理について	4.6
8		避難訓練等による、安全教育の実施	4.6
9		日常の健康観察や感染症の情報提供・取組について	4.6
10		怪我や体調不良時の対処	4.5
11	職員	職員の子どもに対する言葉使い	4.5
13		職員のチームワーク・雰囲気	4.7
15		職員の印象や対応　(挨拶、電話対応など)	4.7
17		先生の保育技術(子どもへの対応や取組みのやり方など)	4.7
18		子ども同士のトラブルが起こった時の対処	4.5
19	活動面	行事について	4.3
20		園外保育やクッキング等の体験活動	4.7
21		主体的保育の取り組み	4.7
22		講師等の教室(英語、スイミング、絵画など)	4.7
23		菜園活動	4.7
24	給食等	給食の献立内容や量、素材を生かす薄味について	4.8
25		手作りおやつと内容について	4.8
26		離乳食の対応	4.8
27		食物アレルギーの対応	4.7
28	保護者支援	延長保育・一時預かりの実施	4.7
29		園と保護者のコミュニケーション(送　迎時、連絡帳など)	4.7
30		年２回のクラス懇談会や二者面談	4.7
31		園だより・クラス便りでの園に関する情報提供の実施	4.5
32		コドモンアプリの活用 （ドキュメンテーション・一斉配信・写真販売・欠席お迎え申請）	4.7
33		献立レシピの配布・給食試食の実施	4.8
34		意見・相談への園の対応	4.7
35		地域の親子向けの園庭開放・子育て支援活動について	4.7
36	諸費用	諸費用①　(園で徴収する給食代)	4.6
37		諸費用②　（個人負担の教材費等）の量・金額	4.6
38		延長保育・１号認定の時間や費用、おやつなどについて	4.6

認定こども園青森ひかり　令和７年度施設関係者評価　結果

評価期間　　令和８年３月17日～3月27日
評 価 者　　５歳児保護者15名
評価方法　　アンケート用紙記入、対面で協議

評価内容

１．活動の取り組みの中で、気づいた点や意見

（１）子どもの姿について

【園生活の楽しさ・愛着】
・毎日楽しく登園し、園が大好きになった**（３人）**
・楽しく過ごし、家庭で園での出来事や会話が増えた**（２人）**
・家とは違う面を知り、園での頑張りを実感した

【成長と身についた習慣】
・心身ともに大きく成長し、できなかったことができるようになった**（３人）**
・挨拶や生活習慣が身についた
・友達との関わりの中で表現力が豊かになった

【優しさ・思いやりの芽生え】
・友達との関わりを通じ、優しく思いやりのある子に育った**（３人）**
・異年齢交流を通じて、下の子への思いやりや上の子を頼る姿が見られた

（２）職員対応について

【寄り添いと温かい対応】
・先生が優しく温かく、一人ひとりに寄り添い親身に対応してくれた**（５人）**
・子どもの「やりたい」気持ちを尊重してくれた
・丁寧な指導とメリハリのある対応に感謝している

【傾聴と保護者支援】
・保護者の気持ちにも寄り添い、親身に相談に乗ってくれた**（２人）**
・日々の送り迎えで園での様子や申し送りを丁寧に教えてくれた**（２人）**
・言葉かけや関わり方を通じて、親側も褒めて伸ばす大切さを学んだ

【丁寧な個別の配慮】
・転園時の行き渋りにも根気強く寄り添ってくれた
・発達相談や個別面談の時間を丁寧に設けてくれた
・難聴や補聴器に関する不安に優しく寄り添い、安心感を与えてくれた
・離乳食、トイトレ、粉薬の服用など、家庭での課題がスムーズに解決した

【園全体の雰囲気と信頼関係】
・毎日安心して子どもを預けることができ、深く感謝している**（３人）**
・職員同士の雰囲気が良く、どの先生も素晴らしかった**（２人）**

（３）行事・活動について

【主体性・全体の取り組み】
・子どもの主体性を尊重し、友達と相談しながらのびのび遊べる環境が良かった

・日々の生活や各種イベントを通して成長を感じられた（2 人）
・保護者参加型の行事が多く、素敵な思い出になった（2 人）

【季節の行事・特別行事】
・**「きらきら発表会」：**探究学習やダンスに自主的に取り組み、輝く姿に感動した（2 人）
・**「お遊戯会」：**舞台での頑張りや可愛らしい姿を見られて感動した（2 人）
・**「運動会」：**リレーや徒競走、よさこいなど、練習を経てのびのび頑張る成長に感動した（5 人）
・**「親子遠足」：**触れ合い遊び、お菓子交換、お弁当など普段できない体験を楽しめた（2 人）
・**「お楽しみ保育」：**夜遅くまでの探検や手作りゲーム、花火会に大興奮だった
・**「卒園式」：**体調不良で欠席した子のために 2 回目の卒園式を行ってくれ、深く感動した（2 人）

【外部教室・外部講師指導】
・スイミングに通うことができ、習い事として継続する意欲や好みが育った（5 人）
・英語教室や知育玩具を通じて、苦手なことに取り組む姿や創作意欲が見られた（2 人）

【戸外活動・日常の遊び】
・戸外遊びや散歩、運動の機会が多く健康的で良かった（2 人）
・昔の歌、わらべうた、自然遊び（虫・草木・鬼ごっこ）を教えてもらえた

（4）食育・給食について

【食育・クッキング・菜園】
・菜園活動やクッキングを通じて食への興味や関心が高まった（4 人）
・畑の先生との関わりや収穫体験を楽しんでいた

【給食・アレルギー対応】
・給食や手作りおやつがとても美味しく、偏食が改善された（3 人）
・アレルギー対応や離乳食対応がしっかりしていて安心して預けられた（2 人）

（5）保護者支援・ICT 活用

【園での様子の可視化】
・アプリ（ドキュメンテーション）の写真や報告で、日々の様子がわかり安心できた（4 人）

（6）保健衛生・安全管理

【感染症・衛生管理】
・衛生管理や感染症対策が徹底されており、安心して預けられた

（7）その他

【利用環境・設備】
・土曜保育や服薬対応などのサポートが手厚く助かった（2 人）
・季節の行事飾り（ひな人形・こいのぼりなど）が立派で良かった